

グローバルに学び、 羽ばたく



CONTENTS

- 01 第1特集 『グローバルに学び、羽ばたく』
「学びの舞台は、さらに広く。
世界とつながる香川大学」
「体験がいちばんの学びに。
グローバルが教えてくれたこと」

- 07 第2特集 『言葉を上手に、楽しもう』
「外国語と気楽なお付き合いで、さあ世界へ」
教育学部 ポール・バテン 准教授
「英語を好きになるコツ教えます」
経済学部 水野 康一 教授

- 11 香川大学LABO
「糖尿病治療モデルを香川から世界へ」
医学部 村尾 孝児 教授
「目指せオリーブ博士」
農学部 別府 賢治 教授
小川 雅廣 教授
「未来を変えるセンサー」
工学部 高尾 英邦 教授

- 17 サークル紹介
・香川大学サッカー部
・KBC香川大学放送部

- 19 香川大学 NEWS
・附属病院南病棟診療開始
・文部科学大臣表彰 科学技術賞受賞

- 20 CENTER INFORMATION
2014入試対策セミナー

- 21 MESSAGE from OG
「リケジョパワーで地元の食を守り育てる」
香川県産業技術センター 発酵食品研究所
大島 久華 氏

香 川大学では、急速に広がるグローバル化社会を見据え、地域の未来を切り開きリードできる人材を育成するとともに、地域の国際交流に貢献する様々な取り組みを行っています。

まず、世界で活躍できる国際性豊かな人材を育成するとともに、アジア・太平洋諸国・アフリカ等から優れた留学生や研究者を受け入れ、相互的な人材育成・交流の促進を図ります。

その具体例として挙げられるのが「4&1プラン」。10年後を目処に、海外からの留学生受け入れを年間400人、海外への留学生を100人へと、いずれも現在から大幅に増強させます。そのため、学部の枠を超えて自由に学修できる「ネクストプログラム」の一つとして、留学を目指す学生たちが意欲的に英語や中国語を学べるコースを設けるなど、教育面から支援します。

また、日本人学生の留学支援や海外からの留学生に対する生活支援をはじめ、海外からの留学生・研究者と本学学生・教職員が自由に交流できるグローバルキャンパスの実現など、「国際化のための環境整備」を推進しています。

今春には、英語で自由に会話を楽しめるイングリッシュカフェや教員交流ラウンジなどを備えたOLIVE SQUAREを幸町キャンパスにオープンしました。

さらに、「地域に根ざした国際化」を念頭に、海外の大学・研究機関等との学術・研究交流を進め、大学の持つ知識・経験やネットワークを地域と共有。地域の発展に繋がる国際交流活性化に貢献します。

メルマガ登録のご案内

香川大学広報室では月に1度メールマガジンを配信しています。各学部教員による『カダイ・ラボ』や学生によるレポートなど楽しいコンテンツが盛りだくさんです。ぜひご登録下さい。

詳しくは『香川大学メールマガジン』で検索
アドレスはこちら

<http://www.kagawa-u.ac.jp/admission/mailmagazine/>



ブルネイ・ダルサラーム大学

(ブルネイ・ダルサラーム国)

2013年度 / 学生・研究者・職員…派遣数20人、受入数26人

石油や天然ガス等資源が豊富なことでも知られる通称ブルネイに、1985年に設立された総合大学。英連邦に加盟し国民の多くが英語を話す。英国の教育システムが整備され、教育・文化のレベルも高い。医学部生は3年間の基礎教育を経て、他の英連邦国で臨床教育を行い、医師免許を取得する。



ブルネイ・ダルサラーム大学(UBD)には、香大生のための夏季医学教育コース(4~5週間)があり、英国式のProblem-Based Learningが体験できます。冬期にはUBD生が香川大学に留学し、基礎医学実習にも参加しています。

研究では、「ブルネイ・ダルサラーム国と日本国における糖尿病及び肥満の比較研究」が、日本学術振興会の「二国間交流事業オープンパートナーシップ共同研究」に採択されています。運動が不足しがち、油と砂糖を多く使用した食物を好むなど、香川県同様に糖尿病や肥満を招く生活習慣の根付くブルネイ・ダルサラーム国。教育学部、農学部も加わり、日本の給食システム導入の試みや、希少糖を使用した食品開発など、総合的に問題解決を目指します。

今年で交流10周年を迎え、7月にUBDで8月には香川大学で、記念式典や記念フォーラムが行われます。UBDを通してイスラム文化圏への理解を深めることで、マレーシア、インドネシアなど周辺国へ交流が広がることも期待されています。



香川での研修報告を行うブルネイの短期留学生。



サボア大学

(フランス共和国)

2013年度 / 学生・研究者・職員…派遣数3人、受入数6人

文理幅広い8学部と19の研究所を有する、学生数13,000人の中規模の国立総合大学。1979年、ローヌアルプ地方のシャンベリー市とアヌシー市近隣の各種学校を統合して創設された。2006年に、サボア大学内の2つの理工科学院が統合し、ポリテク・アヌシー・シャンベリーとなっている。



サボア大学は、ヨーロッパ随一の透明度のあるアヌシー湖と欧州アルプスの雄大な景色を臨み、学びに最適な環境にあります。工学部が発足してすぐの2000年4月に学術国際交流協定を締結。インターンシッププログラムにより継続的に学生の交流を行い、今年度までにサボア大学から45人を受入れ、香川大学から30人を派遣しています。サボア大学でのインターンシップは、5カ月程度滞在し、研究に専念します。また、2008年にスタートした工学部協定校訪問事業の最初の訪問先選ばれ、17人の学生が訪問し現地学生などと交流を深めました。

研究では、2001年より新しいヒューマンインターフェース技術の共同開発を進めています。香川大学に留学していた修士課程、博士課程の学生も、マルチモーダル計測技術と情報統合技術の研究に参加します。

2008年からは、両研究室をインターネット回線をつなぐ、テレビ会議システムを導入し、常に対面しながら研究について発表・議論し合えます。留学生も、研究報告にこのシステムを利用しています。



インターンシップで来学中の(左から)ロバンさん、ジュスティンさん、フィリップさん。

香川大学は、学術国際交流として、16カ国・地域の53大学と「大学間協定」を、13カ国・地域の24大学と「部局間協定」を結んでおり(2014.6.1現在)、留学や研修、インターンシップ等を通じて、世界と共同研究を行ったり、各国の大学生と交流を深めたりすることができます。

なかでも本学と親交の深い、チェンマイ大学(タイ王国)、ブルネイ・ダルサラーム大学(ブルネイ・ダルサラーム国)、サボア大学(フランス共和国)の3大学を海外教育研究拠点校に定め、留学生の交換だけでなく、共同研究に夫々の国の学生と教員が一体となって取り組むなど、活発な学術と人の交流を重ねています。

さらに、留学先で取得した単位を本学の単位として認定するほか、双方の大学から学位を取得できるダブル・ディグリー制度や共同プログラムにより学位を取得するジョイント・ディグリー制度の導入など、学生たちの海外学修を積極的に支援しています。

海外教育研究拠点3校の紹介

香川大学では、以下の3大学を海外教育研究拠点校と定め、国際的な共同研究や、学生や教職員の交換など、活発な交流を進めています。



チェンマイ大学

(タイ王国)

2013年度 / 学生・研究者・職員…派遣数65人、受入数22人

1964年、チェンマイ市にタイ北部初の高等教育機関として設立。タイの大学ランキングで教育・研究とも最高レベルの評価を受けている。20学部と3研究所を有し、学部生27,000人、大学院生7,700人が在籍。ASEANの八七大学としてカンボジア、ベトナムなど周辺国からも学生を受け入れる。



チェンマイ大学と香川大学は、農学部から交流が始まり、現在では、教育学部、工学部、医学部看護科、医学部医学科、経済学部と広がり、全学的に親交があります。今年3月にはチェンマイ大学内に香川大学連携オフィスを開設しました。農学部では、JICAのプロジェクトで多くの教員と研究者が行き来し、植物バイオテクノロジーや省農薬技術の指導・研究を実施。現在では希少糖、生物資源利用、農業経済等の共同研究に発展しています。2007年からは両大学で交互に合同シンポジウムを開催。今年9月にもチェンマイ大学で開かれ、香川大学からは、教員、学生合わせて約60名が参加します。

各学部での学生の交換留学も盛んで、2012年からは全学共通科目授業の一環として、2週間の短期留学を実施。現地の学生と共に英語で授業の受講、現地の小中学校訪問、ホームステイなどを行い、交流を深めます。また、大学院修士課程におけるダブル・ディグリー制度の導入の他、日本語の不得意な人向けの1学期間の留学受け入れ「さぬきプログラム」も今年から開始されます。



海外体験型異文化コミュニケーション授業後に一同で。

学びの舞台は、さらに広く。
世界とつながる香川大学

国際インターンシップ

行動することが大切。
言葉の壁などの不安も
自分で解決できる。

多田 潤矢
(大学院工学研究科博士前期課程2年)



私は国際インターンシップで2013年9月から5ヶ月間、サボア大学ポリテク・アヌシー・シャンペリーにて、NAOというロボットを用いた話者認識システムについて研究しました。このインターンでは研究や語学以外にも様々なことを学びました。自分の意見・意思を持つことの大切さ、国や文化などが違う人々を理解し、相手を認める柔軟性、そして何事にも自分から積極的に行動を起こさなければ認められない事です。これらは海外で生活したからこそ学べた事だと思います。私自身、国際インターンシップへの参加にあたって、言葉の壁など不安に思う事は多くありました。しかし大抵の問題は自分で解決することが出来ました。国際インターンシップに限らず、考える事も大切ですが、まず行動を起こしてみる事をお勧めします。

ネクストプログラム

夢の海外留学を、
充実した体験にするために。

梅田 佳都乃 (経済学部2年)



私は高校生のころから、海外留学をしたいと強く思っていました。香川大学を選んだのは、4年で卒業でき、奨学金も受けられる留学支援プログラムがあると知ったからでした。プログラムに参加した当初は不安ばかりでした。留学に向けて中途半端なことはしたくないという思いと、人並みに充実した学生生活を送りたいという気持ちがありました。結論から言うと、全部できます。やる気さえあれば。私はアメリカで、「本を読むだけでは身につかない能力」を身につけたいと思っています。語学を学ぶというよりは異なった環境への適応力、コミュニケーション能力を養いたいと考えています。みなさんは留学に対してどういった思いを持っていますか。自分の気持ちを大切にしながら海外に一年間行くことも視野に入れてみてはどうでしょうか。

ネクストプログラムとは

学部の枠を超えた自由参加型の特別教育プログラム。留学して語学力や国際専門知識を身につける「グローバル人材育成」、職場等の防災に役立つ「防災士養成」、読書により豊かな人間性を養う「人間探求」の3つのプログラムがあります。

グローバル人材育成プログラムの内容

○語学力の向上

語学力向上のためのプログラム関連授業科目の受講、ネイティブスピーカーとの対話レッスン、インターネットシステムを利用した自主学習を行い、TOEFL(英語コース)、HSK(中国語コース)にチャレンジします。

○1年間の留学

1年間の留学経験を積みます。それにあたって、大学が奨学金等の支援をします。なお、留学はある一定の語学レベルまで達しないと認められません。留学先/カリフォルニア州立大学フラトン校他(英語コース) 上海大学、真理大学(台湾)他(中国語コース)

○修了時

認定審査を通過した学生に対して、「ネクストプログラム修了認定証」を卒業時に授与します。

留学(交流協定校訪問)

異なる考え方や
文化を受け入れることで、
広がりのある価値観に。

大西 悠香
(大学院農学研究科修士課程1年)



チェンマイ大学では課題研究を行うとともに、その他の時間には構内にある語学学校で英語やタイ語を学びました。タイ語のクラスメイトは国籍も年代も様々で、考え方や文化の違いに驚きつつも、それを受け入れることで自分自身の価値観を広げることができたと思います。また、放課後に、時々タイ人の友達とバドミントンをしたことも良い思い出です。お互い英語が拙いながらも、みんな一生懸命話しかけてくれて、すぐに仲良くなることができました。外国人のお客さんではなく、仲間の一員として接してくれたのがとても嬉しかったです。もちろん楽しいことだけでなく、ストレスを感じることもありましたが、留学を終えた今は、その困難が自分を成長させてくれたと実感しています。タイにも日本にも良いところと悪いところの両方がある、それを客観的な立場から見ることができたのは本当に良い経験だったと思います。

留学生の受入

その国の人々の視点で
生活体験できるのも魅力の一つ。

アザリア・ザハルダイン
(教育学部3年)[マレーシア出身]



留学することは面白いことです。私は、3年前から、教育学部で異文化や日本語教育学などを楽しく学んでいます。この間、日本人の視点に立って生活する体験ができました。例えば、春、花見をしたり、イチゴ狩りをしたり、そしてゴールデンウィークにプランを立てて出かける楽しみなど。こうしたいろいろな経験から、私は日本人にとって大事な価値観を理解することができたように思います。そして、集団的な日本人の行動様式がどんなものであるかを深く考えさせられました。卒業後、私は香川大学で学んだ知識を活かして、日本語の先生になりたいです。そして、私の夢は、将来自分の日本語幼稚園を作ることです。

香川大学が行なうグローバル人材育成や、国際化推進への様々な取り組み。4人の学生と留学生に、実際に体験した感想を聞きました。

体験がいちばんの学びに。 グローバルが教えてくれたこと